

阿波人形浄瑠璃

in

勝浦

演 目		太夫・三味線	人 形
三味線演奏 メリヤス		小松島西高校勝浦校民芸部	
傾城阿波の鳴門 順礼歌の段		小松島西高校勝浦校民芸部 勝浦町子ども阿波人形芝居教室	
十郎兵衛内の段		友和嘉会	勝浦座
壺坂観音霊驗記 沢市内の段		小松島西高校勝浦校民芸部	
山の段		友和嘉会	勝浦座

《 と き 》

令和8年

8月30日(日)

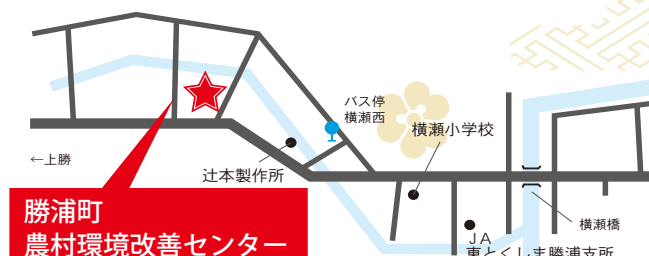
入場
無料

- ◆開 場 13:00
- ◆開 演 13:30
- ◆終 了 15:30 (予定)

《 と こ ろ 》

勝浦町農村環境改善センター

勝浦郡勝浦町大字三溪字古川3-2 ☎0885-42-3300



※バス停横瀬西から徒歩で約5分

- ・ご来場の際は入口での手指消毒にご協力ください。
- ・体調のすぐれない方の入場はご遠慮願います。
- ・演者の都合で、演目が変更になる場合がありますが、ご容赦下さい。



メリヤス

三味線で、短い旋律を繰り返し演奏する音楽です。人形浄瑠璃や歌舞伎で、舞台の状況や登場人物の動き、感情をこの音楽でより効果的に補強します。伸縮自在の編み物の「メリヤス」のように、自由自在に演奏時間を調節できることから名付けられました。

傾城阿波の鳴門 順礼歌の段・十郎兵衛内の段

徳島を舞台にしたこの物語は、阿波国のお家騒動に巻き込まれた母と娘の切ない別れを描いた物語です。阿波の十郎兵衛は、紛失した主家の刀を探すために、盗賊の仲間になり、女房お弓とともに大阪に隠れ住んでいます。ある日、そんなお弓の所へ、幼い順礼の娘がやってきます。国を聞き、名を尋ねると、自分が国に残してきた娘のおつるであることがわかります。娘は、自分を祖母に預けて旅に出た両親を探して、順礼の旅をしているのです。お弓は、我が子可愛さに母と名乗って抱きしめたいと思うのですが、今、母娘と名乗っては、盗賊の子として娘にも難儀がかかってしまうと、涙ながらに心を鬼にして帰してしまいます。しかし、お弓は今別れたらもう会うことができないと思い直して、急いで娘の後を追っていくのでした。

お弓が娘を追って行ったのと入れ違いに、十郎兵衛が順礼の娘の手を引いて帰ってきます。話を聞くとお金を持っているようなので、しばらく貸してくれと頼むのですが、娘は怖がり声を上げたために誤って殺してしまいます。そこへお弓が帰ってきて、娘のおつるが尋ねてきたことを話すと、十郎兵衛は自分が殺してしまった娘が我が子と分かります。お弓はそれを聞き、父母を探してここまで来たのに、なぜ父親に殺されるのかと嘆き悲しみ、十郎兵衛も自責の念にかられるのでした。そこへ盗賊の十郎兵衛夫婦を捕らえようと役人が押し掛けてきます。悲しみの中、十郎兵衛とお弓は娘の亡骸に火をかけて刀を探しに行くのでした。

壺坂観音霊験記 沢市内の段・山の段

「三つ違いの兄さんと……」の語りで知られる名作です。

大和の国、壺坂寺のほとりにお里、沢市という夫婦が暮らしています。病気で目が見えなくなった夫沢市を妻のお里は献身的に助け、賃仕事で暮らしを立てながら、壺坂寺へのお参りをひそかに続けています。

そんなある日のこと、沢市は、美しい女房のお里が夜毎こっそり出かけてゆくのを、好きな男でもいるのではないかと問い詰めます。しかし、妻は自分の目が見えるようにと、壺坂観音に願かけしていたのだとわかり、二人で壺坂寺へ向かいます。寺に着いた二人。沢市は三日間寺で断食するとお里を家へ帰した後、妻の心情を知った沢市は、お里を不憫に思い、いっそ自分が死んだ方が妻が幸せになれるのではないかと、谷に身を投げてしまいます。そして、後を追うお里。しかし、二人が身を投げた谷底の岩屋から観音様が現れ、その霊験によって二人は生き返り、沢市の眼も開くのでした。二人は大喜びして観音様に感謝するという、夫婦愛を描いた物語です。